

行政事業レビューシート (文部科学省)

予算事業名	再生医療の実現化プロジェクト		事業開始年度	平成20年度	作成責任者	
担当部局庁	研究振興局		担当課室	ライフサイエンス課	ライフサイエンス課長 石井康彦	
会計区分	一般会計		上位政策	ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計画、 通知等	新成長戦略(平成22年6月閣議決定)、iPS細胞(人工多能性幹細胞)研究等の加速に向けた総合戦略改訂版(平成21年1月文部科学大臣決定)、iPS細胞研究ロードマップ(平成21年6月文部科学省)、新たなライフサイエンス研究の構築と展開(平成21年12月ライフサイエンス委員会)、第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	世界でも比類なき高齢化社会を迎えている我が国において、脊髄損傷、心筋梗塞、糖尿病等の難病・生活習慣病に対し、これまでの医療を根本的に変革する可能性のある細胞移植・細胞治療等による再生医療について、iPS細胞等を用いた革新的な幹細胞操作技術や治療技術等を世界に先駆け確立し、その実現化を目指す。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	iPS細胞は、再生医療・疾患研究等に幅広く活用されることが期待される我が国発の画期的成果であり、この研究成果を総力を挙げ育てていくため、iPS細胞等研究拠点(京大・慶応・東大・理研)、個別研究事業実施機関(11機関)により、オールジャパン体制のもと戦略的に研究を推進。					
実施状況	事業開始前に公募を行い、審査委員会において採択機関を決定。平成21年度は全23機関において、iPS細胞等を用いた再生医療・疾患研究等を推進。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	-	3,500	7,559	2,370	4,000
	執行額	-	3,428	7,539		
	執行率	-	97.9%	99.7%		
	総事業費(執行ベース)	-	3,429	7,539		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	課題解決型の明確な目標設定を持った国の委託研究プロジェクトであるため、支出先の用途の把握については、これまで厳格に実施している。具体的には、全ての委託契約について、支出先・用途を把握し、備品が適切に購入されたか等について、現地での確認等も含む額の確定調査を実施している。				
	見直しの余地	○再生医療は社会的にも関心が高く、早期の実現が強く期待されていることから、プロジェクトの成果を円滑かつ迅速に実用化につなげていくことが重要。このため、早期より、規制を司る厚生労働省等の関係機関との連携を強化し、前臨床研究から臨床研究につながる実用化に向けた諸プロセスを円滑に実施するための取組を強化すべき。 ○プロジェクトに参加する各機関における研究の進捗により、一部、機関間もしくは拠点内での研究内容の重複や連携不足が指摘されていることから、PD・POのリーダーシップにより機関間・拠点内での連携を進め、プロジェクトの効率的・効果的な推進に努めるべき。 ○常に他の再生医療に係る支援事業との効果的な連携を意識して、事業運営を図っていくべき。				
予算・監視・所効見率化	1. 事業評価の観点: この事業は、iPS細胞等を用いた革新的な幹細胞操作技術や治療技術等を世界に先駆けて実現化することを目指す競争的資金である。 2. 所見: 研究内容の重複を排除するなど、既存の予算を縮減した上で、前臨床段階から実用化に至るプロセスを加速するよう、厚生労働省との連携を強化し、連続的な支援体制を構築すべきである。その際、これまでの事業の成果を有効に活用する観点から、一部について、公募を行わず実施機関を指定するスキームとすべきである。また、「平成23年度科学・技術重要施策アクション・プラン」に沿って資金の使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化を進めるなど、研究者にとって使いやすく、かつ、国費が有効に使われるような事業にしていくべきである。					
補記						

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

文部科学省
7, 539百万円

諸謝金 0.2百万円
職員旅費 1.6百万円
委員等旅費 0.3百万円
庁費 0.1百万円

を含む

世界でも比類なき高齢化社会を迎えている我が国において、脊髄損傷、心筋梗塞、糖尿病等の難病・生活習慣病に対し、これまでの医療を根本的に変革する可能性のある細胞移植・細胞治療等による再生医療について、iPS細胞等を用いた革新的な幹細胞操作技術や治療技術等を世界に先駆け確立し、その実現化を目指す。

[公募等・委託]

A. 再生医療の実現化プロジェクト
:7, 537百万円

大学・独立行政法人等(全23機関)

iPS細胞は、再生医療・疾患研究等に幅広く活用されることが期待される我が国発の画期的成果であり、この研究成果を総力を挙げ育てていくため、iPS細胞等研究拠点(京大・慶応・東大・理研)、個別研究事業実施機関により、オールジャパン体制のもと戦略的に研究を推進。

A.京都大学					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品購入費	ヒトES細胞用蛍光細胞分離解析装置、中型動物用MRIシステム、iPS細胞用蛍光細胞分離解析装置等	2,344			
間接経費		768			
人件費	特定研究員、産学官連携研究員、特定拠点講師、臨床検査技師、技術員、技術補佐員、教務補佐員	98			
雑役務費	iPS細胞培養トレーニングプログラム実施準備作業、知財ポートフォリオ作成	81			
その他	諸謝金(弁理士)、国内旅費、海外旅費	38			
計		3,329	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

A:再生医療の実現化プロジェクト

	支出先	支出額(百万円)
1	国立大学法人京都大学	3,329
2	独立行政法人理化学研究所	2,300
3	国立大学法人東京大学	676
4	慶應義塾大学	525
5	財団法人先端医療振興財団	78
6	国立大学法人東北大学	53
7	国立大学法人熊本大学	50
8	名古屋市立大学	50
9	国立大学法人九州大学	50
10	国立大学法人名古屋大学	50
⋮	その他	376
合計		7,537